

地域間交流・観光交流等内外交通の推進

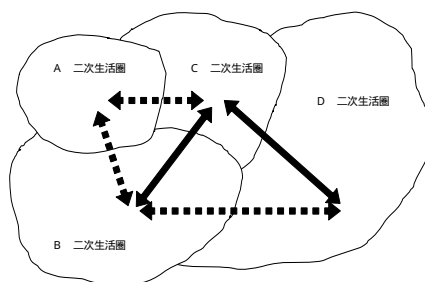
～ 住民生活の利便性向上、地域経済の活性化等に資する地域間交流を支援する道路整備 ～

(1) 取組みの背景と必要性

住民生活の利便性の向上、地域経済の活性化等を図る

住民生活(通勤、通学、医療、福祉、防災等)の利便性の向上、地域経済の活性化等のためには、地域間を結ぶネットワークが必要となるが、隣接する二次生活圏の中心都市を結ぶ国道が改良されていない地域が存在している。

そこで、地域間を結ぶネットワークの強化を目指すため、隣接する地域の中心の都市を結ぶルートである「地域間交流ルート」の重点的な整備を推進する。



対象ルートは二次生活圏間の最短ルート
二次生活圏中心都市
道路改良済みルート
道路未改良ルート

上図の場合、交流ルートの確保率40%
全5ルート中、2ルート確保

(2) 達成度報告と業績計画

新たに4つの地域間交流ルートを整備

平成17年度は、新たに5ルートの「地域間交流ルート」の整備を完了する目標に対し、4ルートの整備を完了し、着実に整備は進んでいる。

平成18年度も引き続き地域間交流等の促進を支援

平成18年度は、新たに7ルートの「地域間交流ルート」について整備を完了する。

【隣接生活圏を結ぶルート概念図】

(3) 代表的な指標の動向

隣接する地域の中心の都市間が改良済みの国道で連絡されている割合

平成17年度は1ルートの整備が未完了のため、実績値は74%にとどまっている。平成18年度は76%に向上することを目標とする。

H16 実績	H17 目標	H17 実績	H18 目標	H19 目標
74%	75%	74%	76%	77%

東北地方での整備事例(平成17年度)

整備効果

国道115号土湯バイパスの開通により、土湯峠の交通難所が解消され、年間を通じて安全で快適な通行が可能となった。

また、これまでより、時間短縮が図られ、福島県内有数の観光地である会津地方と東北地方とのアクセス性が向上したことにより、観光地のより一層の活性化や安定した地域間交流が期待される。

さらに、事前通行規制区間が解消されたことにより、救命・救急・医療・消防活動など緊急輸送道路ネットワークとして十分な機能を果たすことができる。

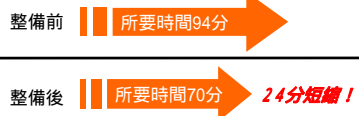


整備前(冬期間の交通状況)



整備後(安全・安心な道路に)

福島市～猪苗代町間の所要時間が短縮



担当：道路局 国道・防災課